

ユースボランティア茅ヶ崎 2025 事業報告書



(社福) 茅ヶ崎市社会福祉協議会と(認定特非) NPO サポートちがさきの共催により、夏休み期間中、中高生から大学生(25歳程度まで)を対象としたボランティア体験プログラムを実施。初めてボランティアに挑戦する若者にも丁寧に寄り添い、「やってみよう!」という気持ちを大切にしながら、『自分にもできることがあるかも』という気づきにつながるよう支援。日常ではなかなか得られない貴重な体験や人との出会いの場を提供し、若者たちの一歩を応援しました。

・申込期間 6/16(月)午前9時半～6/30(月)

参加者募集チラシは、茅ヶ崎市内の公立中学校、神奈川県立高校、私立高校の全校生徒に配布

Step ① オリエンテーション

1回目: 7月5日(土) 10:00～12:00

会場

2回目: 7月5日(土) 14:00～16:00

さがみ農協ビル5階大会議室



参加必須。都合がつかない学生を対象に個別対応も実施。ボランティア体験に向けての心構えや体験先の紹介を受けたのち、体験したい団体ブースで対面による担当者と面談、体験日を決定する。



参加者 118名(1回目 57名、2回目 33名、別日 28名)



受入団体と参加者の日程調整



会場設営や案内・受付は、市内2校の高校へ「運営ボランティア」を依頼

【体験先の受入団体・施設 22カ所】

- ・生活リハビリクラブ茅ヶ崎
- ・(社福)翔の会 萩園ケアセンター
- ・(社福)翔の会 湘南鬼瓦
- ・(社福)翔の会 ブルーベリー
- ・(社福)翔の会 水平線
- ・(社福)翔の会 入道雲
- ・NPO 法人松の実会 みらま〜る
- ・NPO 法人トムトム あいあいクラブ
- ・地区社協・ボラセン(茅ヶ崎市内 13 地区)
- ・NPO 法人ちがさき学童保育の会
- ・ぽかぽか保育園
- ・わくわく保育士ボランティア(茅ヶ崎市内 18 の社会福祉法人立保育園)
- ・NPO 法人ワーコレたんぼぼひろば たんぼぼはうす
- ・きらきらぼし(子育て応援する会)
- ・ちがぼ〜(茅ヶ崎に冒険あそび場をつくろう会)
- ・NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会
- ・茅ヶ崎里山公園倶楽部
- ・ほのぼのビーチ茅ヶ崎
- ・サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ
- ・NPO 法人湘南市民メディアネットワーク
- ・NPO 法人 WE21 ジャパンちがさき
- ・認定 NPO 法人 NPO サポートちがさき (順不同)

Step ② 体験期間

7月19日(土)～9月7日(日) ※2日以上の実験を推奨

参加人数：118名(中学生29名、高校生82名、大学生以上7名)



いざ体験スタート！最初は緊張もするけど、終わった後の「達成感」を味わえたのではないだろうか

Step ③ シェア de ボランティア

会場 ちがさき市民活動サポートセンター

1回目：8月6日(火)14:00～16:00 参加人数：13名 体験先の担当者3名

2回目：8月21日(木)14:00～16:00 参加人数：8名 体験先の担当者3名

～体験を振り返り、参加者で意見を共有する場～



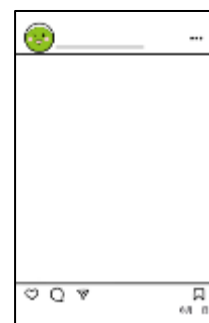
▶グループワーク

「よかったこと」「大変だったこと」「気づいたこと」を
各々、書き出し意見をみんなで共有



▶個人ワーク

「私が100万人以上のフォロワーがいるイン
フルエンサーだったら、SNSでボランティアにつ
いてどう発信する？」



△

ワークシートをInstagram風にデザ
インしたのは大学生スタッフ。
SNS世代の若者たちが気軽に、素直
に気持ちを表現できるよう工夫！

■参加者体験レポートより(抜粋)

- ・いろいろな職種の人たちが活動をしていて、社会勉強になった。命の大切さについて改めて考えることが出来た(環境)
- ・高齢者それぞれに人生のドラマがあり、そこから考えていること、伝えたいことを持っているのだと感じた。年配の方との対話には多くの学びがあると実感した。(福祉)
- ・地域の方々、高齢の方、学生など年齢に関係なく話をする光景をみて、将来私もこのようなコミュニティをつくっていきたく考えた。(福祉)
- ・自分が思ったこと、想定したものの通りに反応、動いてくれない難しさがあった。(子ども)
- ・体験前とはイメージがガラリと変わり、子どもたちが思っていた何倍もしっかりものであること、先生たちもみんなのことを細かく見ていて知っていて、体験しなきゃわからなかったことだらけだった。(子ども)
- ・ボランティア団体の多さに驚いた(まちづくり)

■最後に

この夏のボランティア体験を通して、新しい自分の発見や気づき、受入先の活動の重要性に触れることができました。地域の大人たちとの出会いも、参加者にとって大きな財産です。それぞれの立場で地域を支える姿に触れ、

「自分も何かできるかもしれない」と感じるきっかけになったはずです。視野が広がり、地域や周りへの関心が芽生え、「自分と社会はつながっている」と実感できる——それこそが、ボランティアの魅力です。

この経験は、きっと自分の“財産”になります。どんな小さなきっかけでも、「やってみよう！」という気持ちから始まるのがボランティア。若いチカラに、私たちは大きな期待を寄せています。